

2018年度心理臨床センター活動報告

1. 開室状況

開室日数は254日（月平均21.2日）、勤務のべ人数は1172人（月平均97.7人）だった。

2. 電話対応状況

電話対応の内訳は Table 1のとおりだった。

Table 1 電話対応の内訳

月	新規 申込	継続 予約	中止・ 変更	紹介	その 他	合計
4月	6	7	5	0	9	27
5月	5	2	5	0	9	21
6月	6	2	6	0	8	22
7月	15	3	10	0	21	49
8月	2	6	7	0	13	28
9月	3	3	9	0	21	36
10月	54	12	14	0	77	157
11月	8	7	16	2	49	82
12月	3	2	14	0	17	36
1月	6	5	14	1	30	56
2月	4	5	7	0	22	38
3月	2	5	5	0	16	28
合計	114	59	112	3	292	580
月平均	9.5	4.9	9.3	0.3	24.3	48.3

3. 相談件数

年間の相談受理件数は117件だった。年間のべ603件の相談（月平均50.3件）を受理した。各月における面接形態の内訳は Table 2のとおりだった。なお、2018年度に実施した心理検査は Table 3のとおりであった。

Table 2 相談の内訳

月	初回 面接	心理 相談	並行 面接	心理 査定	その 他	合計
4月	1	30	0	0	0	31
5月	3	25	1	1	0	30
6月	3	35	0	2	0	40
7月	7	38	1	0	0	46
8月	6	37	0	3	0	46
9月	1	40	0	2	0	43
10月	22	49	0	0	0	71
11月	12	45	0	0	0	57
12月	5	45	0	0	0	50
1月	1	39	1	36	0	77
2月	4	42	0	20	0	66
3月	0	44	1	1	0	46
合計	65	469	4	65	0	603
月平均	5.4	39.1	0.3	5.4	0.0	50.3

Table 3 2018年度に実施した心理検査

	検査名	実施数
AAQ-II:	Acceptance and Action Questionnaire-II	13
ADIS:	Anxiety Disorders Interview Schedule for DSM-IV	54
AFQ-Y:	Avoidance and Fusion Questionnaire for Youth	5
AQ:	Autism-Spectrum Quotient	2
ASCA:	Anger Scale for Children and Adolescents	11
BDI-II:	The Beck Depression Inventory-II	37
CABS:	Children's Avoidance Behavior Scale	47
CDI:	Children's Depression Inventory	3
CES-D:	The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale	29
CFQ:	Cognitive Fusion Questionnaire	7
CISS:	Coping Inventory for Stressful Situations	1
CPAS:	Children's Pleasant Activity Scale	47
DSRS-C:	Depression Self-Rating Scale for Children	59
DSRS-P:	Depression Self-Rating Scale for Parent	47
EAT-26:	Eating Attitudes Test 26	3
GHQ30:	The General Health Questionnaire	14
HADS:	Hospital Anxiety and Depression Scale	28
IBS-SI:	Irritable-Bowel-Syndrome Severity Index	1
J-ZBI 8:	Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版	14
KKSI	Kupperman Konenki Shogai Index	28
LSAS-J:	Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版	31
MAAS:	Mindful Attention Awareness Scale	1
M.I.N.I.:	Mini-International Neuropsychiatric Interview	4
OQ-45.2:	Outcome Questionnaire	38
PARS-TR:	Pervasive Developmental Disorders-Autism Society Japan Rating Scale-Text Revision	4
QOL26:	WHO QOL26	26
Rorschach Test		54
SADS:	Social Anxiety Disorder Scale	11
SCAS:	Spence Children's Anxiety Scale	47
SCAS-P:	Parent Version of the Spence Children's Anxiety Scale	47
SDQ:	The Strengths and Difficulties Questionnaire	47
SDQ-P:	The Strengths and Difficulties Questionnaire for Parents	47
SF-36v2:	MOS 36-Item Short-Form Health Survey	37
Short CAS:	Short version of Spence Children's Anxiety Scale	11
新版 STAI:	State-Trait Anxiety Inventory-JYZ	42
VQ:	Valuing Questionnaire	10
WAIS-III:	Wechsler Adult Intelligence Scale-III	1
WEMWBS	The Warwic-Edinburgh Mental Well-being Scale	28
WISC-IV:	Wechsler Intelligence Scale for Children-IV	3
全検査合計		939

4. 相談者内訳

相談者の内訳は Figure 1-3のとおりだった。

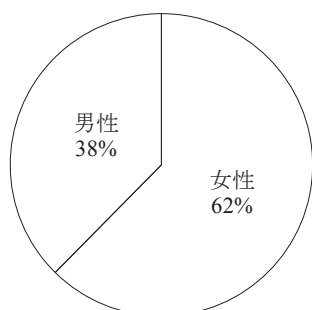


Figure 1 相談者の男女比

5. 主訴内訳

主訴の内訳は Table 4のとおりだった。

Table 4 主訴の内訳 (件数)

子どもの発達・不安	78
更年期症状	28
家族関係	4
うつ・不安	2
対人関係	2
勤務問題	1
心身症	1
その他	1
合計	117

6. 来所経緯

相談者が本学心理臨床センターを知った経緯は Table 5のとおりだった。

Table 5 来談経緯 (件数)

学校より紹介	56
新聞広告	47
知人より紹介	7
ホームページ	5
病院より紹介	3
パンフレット	2
その他	2
合計	122

(複数回答)

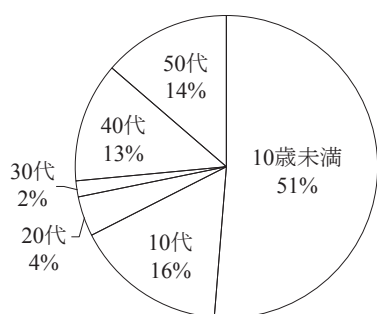


Figure 2 相談者の年齢層

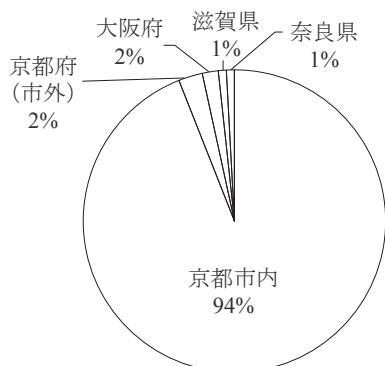


Figure 3 相談者の居住地域

7. 特別プログラム実施状況

2018年度には3つの特別プログラムが実施され (Table 6), 相談研修員が臨床と研究を学ぶ機会となった。

Table 6 2018年度実施特別プログラム

プログラム	面接数 ^{注1)}
子どもの不安と抑うつ改善プログラム: にげチャレ教室	233
更年期症状改善プログラム: さらさら教室	28
認知症の介護ストレスケアプログラム: しなやか教室	14
合計	275

注1) 面接数は初回, 継続, 査定を指す

8. 実習実績

博士課程前期課程10名の相談研修員が在籍し, 本学心理臨床センター内における臨床実習の総時間は178.0時間, 一人あたりの平均実習時間は17.8時間だった (スーパーバイズに必要な時間を含まない)。実習形態は Table 7のとおりだった。

Table 7 実習形態の内訳

面接担当 ^{注1)}	66.0
面接陪席 ^{注2)}	99.0
プレイ	4.0
検査	1.0
受付	4.0
その他	4.0
合計	178.0

注1) ケースでの主担当を指す

注2) 面接室での同席, あるいはカメラシステムを介した観察を指す

9. 広報活動

「英語による心理相談」チラシ設置 (京都府国際センター, 4月1日-1月15日)

「子どもの不安と抑うつ改善プログラム: にげチャレ教室」広告掲載 (京都リビング, 4月14日, 6月2日, 7月14日, 9月22日)

「更年期症状改善プログラム: さらさら教室」広告掲載 (京都リビング, 10月20日)

10. 心理臨床センター委員会

第1回

日 時 2019年3月7日 (木)
17:40-18:00

場 所 彰栄館2階 会議室

出席者 神山 貴弥 (センター長), 武藤 崇 (副センター長), 上田 雅弘 (学生支援機構長), 植木 朝子 (教育支援機構長), 谷本 高彦 (総務部長), 中谷 隆志 (心理学部・心理学研究科事務室事務長, 以下事務長と記載)

11. 心理臨床センター運営委員会

第1回

日 時 2018年4月18日 (水)
13:00-14:10

場 所 継志館 心理臨床センター研修室

出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長), 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪, 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友香里, 中谷 隆志 (事務長)

第2回

日 時 2018年5月16日 (水)
13:00-14:45

場 所 継志館 心理臨床センター研修室

出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長), 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪, 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友

2018年度心理臨床センター活動報告

香里, 中谷 隆志 (事務長)

第3回
 日時 2018年5月30日 (水)
 13:00-13:45
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
 香里, 中谷 隆志 (事務長)

第4回
 日時 2018年6月27日 (水)
 13:00-14:40
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
 香里, 中谷 隆志 (事務長)

第5回
 日時 2018年7月11日 (水)
 13:00-14:00
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
 香里, 中谷 隆志 (事務長)

第6回
 日時 2018年7月25日 (水)
 13:00-14:15
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 興津 真理子, 大屋 藍子,
 佐藤 豪, 杉若 弘子, 堀江 幸代,
 梅澤 友香里, 中谷 隆志 (事務長)

第7回
 日時 2018年10月10日 (水)
 13:00-14:00
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 杉若
 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友香里,
 中谷 隆志 (事務長)

第8回
 日時 2018年10月24日 (水)
 12:55-13:40
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 堀江
 幸代, 梅澤 友香里, 中谷 隆志 (事
 務長)

第9回
 日時 2018年11月14日 (水)
 13:00-14:25
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 杉若
 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友香里,
 中谷 隆志 (事務長)

第10回
 日時 2018年12月12日 (水)
 13:00-14:25
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
 香里, 中谷 隆志 (事務長)

第11回
 日時 2018年12月19日 (水)
 13:00-13:10
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
 杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
 香里, 中谷 隆志 (事務長)

第12回
 日時 2019年1月9日 (水)
 13:00-13:50
 場所 継志館 心理臨床センター研修室
 出席者 藤岡 勲, 武藤 崇 (副センター長),
 興津 真理子, 大屋 藍子, 杉若
 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友香里,
 中谷 隆志 (事務長)

第13回

日時 2019年3月6日(水)
13:00-14:00
場所 継志館 心理臨床センター研修室
出席者 藤岡 勲, 武藤 崇(副センター長),
興津 真理子, 大屋 藍子, 佐藤 豪,
杉若 弘子, 堀江 幸代, 梅澤 友
香里, 中谷 隆志(事務長)

12. 研究活動

刊行物(著書・論文等)

荒井 穂菜美・青木 俊太郎・石川 信一・坂野
雄二 大学生のスピーチ不安に伴う不安の
コントロール感の継時的変化の検討 臨床
心理学, 18, 613-618.
荒井 穂菜美・石川 信一・清水 栄司 認知行
動療法を用いた治療 こころの科学, 201,
57-61.
Drake, C. E., Masuda, A., Dalsky, D.,
Stevens, K. T., Kramer, S., Primeaux,
S. J., Muto, T., & Mitamura, T.
Examining U.S. and Japanese college
students' differences in psychological
distress: the mediating roles of
valued action and experiential
avoidance. *International Journal of the
Advancement of Counselling*, 41, 25-40.
藤岡 勲 ナラティブ・アプローチ 下山 晴彦
(編集主幹) 公認心理師技法ガイド—
臨床の場で役立つ実践のすべて—
(pp.357-362) 文光堂
橋本 光平・武藤 崇 加齢ステレオタイプへの
行動的同化における認知的フュージョンの
調整効果 心理学研究, 90, 93-99.
肥田 乃梨子・石川 信一 青年版社会的距離の
近さ尺度の作成 心理臨床科学, 8, 3-17.
肥田 乃梨子・石川 信一・佐藤 寛 メンタル
ヘルスリテラシーに関する心理教育プログ
ラムの実践—援助者・被援助者への効果
の違いに焦点を当てて— 日本教育心理

学会第60回総会発表論文集, 339.

石川 信一 第6章 量的データ解析 三浦 麻
子(監修) 米山 直樹・佐藤 寛(編) 心
理学ベーシック第5巻なるほど! 心理学面
接法 (pp.70-81) 北大路書房
石川 信一 通常学級に在籍する発達障がい(疑
いも含む)のある児童生徒の健康課題に対
応する担任教師による健康支援プログラム
開発と社会実装の取り組み 発達障害研究,
40, 317-324.
石川 信一・石井 僚・福住 紀明・村山 航・大
谷 和夫・榊 美知子・鈴木 高志・田中 あ
ゆみ 短縮版児童用不安尺度 (Short
CAS) 日本語版作成の試み—青年を対
象とした信頼性と妥当性の検討— 不安
症研究, 10(1), 64-73.
武藤 崇 なぜ日本人には「チャレンジング行動」
という用語の理解が難しいのか—認知症
のBPSDに対する介入におけるパラダイ
ム・シフトの核心— 心理臨床科学, 8,
31-38.
武藤 崇 アクセプトダンス&コミットメント・
セラピー(第3章-1) 藤澤大介・佐渡充
洋(編) マインドフルネスを医学的にゼ
ロから解説する本—医療者のための臨床
応用入門— (pp.112-121) 日本医事
新報社
武藤 崇 心理学と良心(第14章) 同志社大
学良心学研究センター(編) 良心学入門
(pp.141-150) 岩波書店
武藤 崇 第三世代の認知行動療法である
ACTは慢性疼痛に有効か? 「慢性の痛
み診療・教育の基盤となるシステム構築に
関する研究」研究班(監修) 慢性疼痛治
療ガイドライン (pp.123-125) 真興交
易医書出版部
武藤 崇・野口 代 認知症の行動・心理症状
(BPSD)に対する認知療法・認知行動療
法の可能性 認知療法研究, 12, 23-30.
長尾 文子・石川 信一 児童養護施設で生活す
る社交不安症状が高い児童への認知行動的

- 介入および施設職員に対する心理教育の導入 認知療法研究, 11, 217-226.
- 中川 明仁・木村 穰・吉内 佐和子・宮内 拓史・齋藤 瞳・馬場 天信・佐藤 豪 減量介入終了後のリバウンド評価に影響する心理特性 *Journal of Health Psychology Research*, 31, 53-59.
- 中西 陽・石川 信一 自閉スペクトラム症児のための社会的スキル尺度親評定版の作成 心理臨床学研究, 36, 387-396.
- 大屋 藍子 最近, 大きく進歩している糖尿病治療——新たな取り組みとこころの持ち方—— 知っておきたい循環器病あれこれ 循環器病研究振興財団 第130号 12-15.
- ローズマリー・B・メヌッティ, レイ・W・クリストナー, アーサー・フリーマン (著) 石川 信一・佐藤 正二・武藤 崇 (監訳) 子どもの心の問題支援ガイド——教育現場に活かす認知行動療法—— 金剛出版
- スーザン・C・ウィストン (著) 石川 信一・佐藤 寛・高橋 史 (監訳) カウンセリングにおけるアセスメントの原理と適用 [第4版] 金子書房
- 肌原 彩香・岸田 広平・石川 信一 児童青年の身体症状に対する認知行動療法の展望 心理臨床科学, 8, 39-52.
- 米澤 里奈・興津 真理子 強みの活用によるレジリエンスへの影響についての展望 心理臨床科学, 8, 53-60.
- 学会活動**
- 阿部 望・岸田 広平・石川 信一 子どもの強みへの注目と精神的健康との関連 (日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, ポスター発表, 9月26日)
- Abe, N., Kishida, K., & Ishikawa, S. A pilot study of a school-based strength-intervention: Effects on depression and well-being among Japanese adolescents (The 52th Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Washington, D.C., ポスター発表, 11月16日)
- Arai, H., Ishikawa, S., Korte, J. K., & Schmidt, N. B. A preventive intervention for safety behavior in students with subclinical social anxiety. A pilot study. (The British Association for Behavioural Cognitive & Psychotherapies, Scotland, 7月)
- 藤井 彩・上西 祐輝・上田 亜希子・高尾 奈那・吉内 佐和子・宮内 拓史・井上 健太郎・佐藤 豪・木村 穰 肥満外科手術施行後の受診中断に影響を及ぼす心理的要因の検討 (第36回日本肥満症治療学会学術集会, 口演発表 (優秀演題セッション2), 東京都 (一橋記念講堂), 6月15日)
- 藤岡 勲 国際結婚夫婦の組み合わせに対する民族とジェンダーの交差性の影響——日本全国・東京都区部・名古屋市・大阪市の人口動態統計データによる検討—— (第91回日本社会学会大会, 口頭発表, 9月15日)
- 藤島 雄磨・石川 信一・岸田 広平 思考抑制に関するメタ認知的信念が思考抑制方略の使用に及ぼす影響の検討 (日本認知・行動療法学会第44回大会, TKP 品川カンファレンスセンター・明治学院大学白金キャンパス, ポスター発表, 10月)
- 福住 紀明・村山 航・石井 僚・石川 信一・大谷 和太・榊 美知子・鈴木 高志・田中 あゆみ 親による子どもの動機づけの認知と子どもの動機づけとの関連について——APIMによる縦断的検討—— (日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, ポスター発表, 9月16日)
- 福住 紀明・村山 航・石井 僚・石川 信一・大谷 和太・榊 美知子・鈴木 高志・田中 あゆみ 親による子どもの欲求充足の認知と子どもの欲求充足との関連について——APIMによる縦断的検討—— (日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, ポスター発表, 9月27日)

- Hashiguchi, K., Ishikawa, S., & Muto, T. Effect of social contingency on rule-following among people with high and low depressive symptoms. (Association for Contextual Behavioral Science World Conference 16, Montreal, Canada, ポスター発表, 7月)
- Ishii, R., Fukuzumi, N., Ishikawa, S., Murakami, T., Murayama, K., Ohtani, K., Sakaki, M., Suzuki, T., & Tanaka, A. How similar is early adolescents' time perspective compared to their parents? (American Educational Research Association Annual Meeting, New York City, U.S.A. ポスター発表, 4月16日)
- Ishii, R., Fukuzumi, N., Ishikawa, S., Murakami, T., Murayama, K., Ohtani, K., Sakaki, M., Suzuki, T., & Tanaka, A. Parental influence of avoidance personal goal pursuit. (16th International Congress on Motivation, Aarhus, Netherlands, ポスター発表, 8月15日)
- 石井 僚・村山 航・福住 紀明・石川 信一・大谷 和夫・榊 美知子・鈴木 高志・田中 あゆみ 中学生の学業ストレスと抑うつに関連に対する運動習慣の調整効果 (日本教育心理学会第60回総会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, ポスター発表, 9月16日)
- 石井 僚・村山 航・福住 紀明・石川 信一・大谷 和夫・榊 美知子・鈴木 高志・田中 あゆみ 中学生の運動習慣が友人ストレスと抑うつに関連に及ぼす影響——1年間の縦断調査による検討—— (日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, ポスター発表, 9月28日)
- Ishikawa, S., Kikuta, K., Sakai, M., & Mitamura, T., & Motomura, N. A randomized control trial of cognitive behavior therapy for children and adolescents with anxiety disorders in Japan. (The 52nd Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Washington, D.C., ポスター発表, 11月24日)
- Ishikawa, S., Kishida, K., Oka, T., Saito, A., Shimotsu, S., Watanabe, N., Sasamori, H., & Kamio, Y. Accessibility and feasibility of the Universal Unified Prevention Program for Diverse Disorders (Up2-D2): A transdiagnostic application for children in school. (Australian Association for Cognitive and Behaviour Therapy 39th National Conference 2018, Brisbane, 口頭発表, 10月25日)
- 伊藤 雅隆・橋本 光平・武藤 崇 短期間アクセプタンス&コミットメント・セラピーの系統的レビュー (第18回日本認知療法・認知行動療法学会, ポスター発表, 11月)
- 伊藤 雅隆・橋本 光平・武藤 崇 短期間アクセプタンス&コミットメント・セラピーの系統的レビューとメタ分析 (ACT Japan 2018年度年次ミーティング, ポスター発表, 3月)
- Ito, M., & Muto, T. Evaluation of the effectiveness of a brief intervention based on Acceptance and Commitment Therapy for Irritable Bowel Syndrome non-patients. (Association for Contextual Behavioral Science Annual world conference 16, 7月)
- 伊藤 雅隆・武藤 崇 過敏性腸症候群の症状を有する大学生へのアクセプタンス&コミットメント・セラピーに基づくプログラムの効果の検討 (日本認知・行動療法学会第44回大会, ポスター発表, 10月)
- 金山 裕望・庭山 和貴・石川 信一・佐藤 寛 自閉スペクトラム症傾向児と定型発達児との共同学習場面における対人相互作用 (日

- 本発達障害学会第53回研究大会, 福山市立大学, ポスター発表, 8月11日)
- Kishida, K. & Ishikawa, S. An open trial of Exposure based Transdiagnostic intervention Program (ETP) for anxiety and depression in children and adolescents. (The 52nd Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Washington, D.C., ポスター発表, 11月)
- 岸田 広平・石川 信一 児童の不安症と抑うつ障害に対する診断横断的介入——ランダム化比較試験の結果——(第11回日本不安症学会学術大会, じゅうろくプラザ, ポスター発表, 3月)
- Kishida, K. & Takahashi, F. Effects of solution verification training on decision making skills and aggressive behaviors. (The 13th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, Malaysia, ポスター発表, 8月)
- Muto, T. The effect of ACT-enhanced DANCE treatment for reducing burden of caring in Japanese family caregivers of dementia: A single-case experimental design (ACBS World Conference 17th, Montreal, Canada, 7月26日)
- 武藤 崇 新しい研究領域としての「臨床言語心理学」は可能か——行動分析学からの提言——(日本行動分析学会第36回年次大会, 自主企画シンポジウム話題提供, 8月24日)
- 武藤 崇 「わがこと・まるごと」地域ケア時代における認知症問題に行動分析学はどのように寄与できるか(日本行動分析学会第36回年次大会, 学会企画シンポジウム話題提供, 8月26日)
- 武藤 崇 「第三の波(世代)」とは何だったのか——この15年を「マインドフルに」振り返る——(第1回近畿認知療法・認知行動療法学会, 話題提供, 9月1日)
- 武藤 崇 RDoC時代におけるアクセプタンス&コミットメント・セラピー——ACTにおけるメカニズムとは何か——(日本心理学会第82回大会, 話題提供, 9月25日)
- 武藤 崇 「こころの健康」の保持増進モデルとしての「心理的柔軟性」——これからの心理職のためのOS——(日本心理学会第82回大会, 話題提供, 9月25日)
- 武藤 崇 なぜ「行動を継続的に測定する」のか(日本認知・行動療法学会, 自主企画シンポジウム話題提供, 10月27日)
- 武藤 崇 ACTはベックの認知療法に「何を足す(引く)」のか(日本認知療法・認知行動療法学会, 大会企画シンポジウム話題提供, 11月23日)
- 武藤 崇 アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)(日本認知療法・認知行動療法学会, ワークショップ話題提供, 11月25日)
- 武藤 崇 軽度認知障害をもつ母親の長時間通話の低減——家族に対する機能アセスメントに基づくポジティブな行動支援——(日本老年臨床心理学会第1回大会, 口頭発表, 3月3日)
- 永原 康裕・北村 紗耶香・石川 信一・佐田久真貴 通級指導教室における自閉スペクトラム症のある児童に対する社会的スキル訓練の効果(第44回日本認知・行動療法学会大会, 明治学院大学, ポスター発表, 10月27日)
- 中西 陽・石川 信一 中学生の社会的スキル, 同性・異性友人からのソーシャル・サポート, 精神的健康の関連(日本教育心理学会第60回総会, ポスター発表, 9月18日)
- Ohtani, K., Ishii, R., Fukuzumi, N., Murayama, K., Suzuki, T., Ishikawa, S., Sakaki, M., & Tanaka, A. Motivational perseverance between parents and children: Theory of intelligence and grit. (16th

- International Congress on Motivation, Aarhus, Netherlands, ポスター発表, 8月16日)
- 大屋 藍子 肥満症患者に対する行動分析学的アプローチ (日本行動分析学会第36回年次大会, 同志社大学, 大会企画シンポジウム「食行動と行動分析学」話題提供, 8月25日)
- 大屋 藍子 行動変動性の増大と正の強化を受ける機会の拡大 (日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, 公募シンポジウム「RDoC 時代におけるアクセプタンス&コミットメント・セラピー(1)——その機序を関係フレームと行動変動性の観点から探究する——」話題提供, 9月25日)
- 大屋 藍子 セラピープロセスを行動の視点から捉える (日本行動科学学会ウィンターカンファレンス, 奈良, シンポジウム2企画・司会, 2月28日)
- 大屋 藍子 メンタルヘルス問題の行動分析学的理解(2) (2018年度日本行動分析学会 春の学校, びわこリトリートセンター, 第3限「RFT と ACT ワークショップ」分担発表, 3月8日)
- 大屋 藍子 価値に基づいて行動変容を促す (2018年度 ACT Japan 年次ミーティング, 大会企画シンポジウム司会, 3月17日)
- 小野 真嗣・三木 詩織・大屋 藍子・中川 裕美・石崎 淳一 臨床心理士養成課程における基礎的実習②—— SST に基づいた電話・会計対応訓練と実践時におけるセルフモニタリングの導入—— (日本心理臨床学会第37回大会, 神戸ポートピアホテル, 口頭発表, 9月2日)
- 酒井 美枝・近藤 真前・杉浦 健之・武藤 崇 慢性疼痛に対する集団アクセプタンス&コミットメント・セラピーの予備的研究 (第48回日本慢性疼痛学会, 口頭発表, 2月15日)
- 竹村 忠寛・杉若 弘子 セルフ・コントロールにおける計画的逸脱 (日本心理学会第82回大会, 仙台国際センター, ポスター発表, 9月27日)

- Ubara, A., Kishida, K., & Ishikawa, S. Are there subtypes of insomnia in adolescent?: The effect of dysfunctional beliefs about sleep on adolescent's insomnia symptoms with and without Delayed Sleep Phase (DSP). (The 52nd Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Washington, D.C., ポスター発表, 11月)
- 八幡 朋奈・石川 信一・岸田 広平 インターネットを用いた認知再構成プログラムによる大学生のレジリエンスと心理的ウェルビーイングへの効果検討 (日本認知・行動療法学会第44回大会, TKP 品川カンファレンスセンター・明治学院大学白金キャンパス, ポスター発表, 10月)
- 米澤 里奈・佐藤 豪・永田 俊代 レジリエンスと自己効力感がストレス過程に及ぼす影響について (日本健康心理学会第31回大会, 京都橘大学, ポスター発表, 6月23日)

研究会活動

- 阿部 望 子どもの精神的健康の向上を目指した学校での強み介入 (第2回日本心理学会ポジティブ心理学研究会, 東洋大学, 小講演, 2月18日)
- 早樫 一男・古川 秀明・興津 真理子 現任者のための家族援助研修会 京都家族造形研究会 (5月11日, 6月8日, 7月13日, 8月10日, 9月14日, 10月12日, 11月9日, 12月14日)
- 伊藤 雅隆・武藤 崇 過敏性腸症候群に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピーの検討 (第4回橘サイエンスセミナー, 口頭発表, 2月)
- 武藤 崇 慢性痛治療における ACT ——その理解と実践—— (慢性痛アセスメント研究会, 話題提供, 10月7日)
- 武藤 崇 抑うつと過食エピソードをもつ肥満女性に対する「ACT・脱ダイエット」プログラムの効果——事例研究(2)—— (臨床行動分析研究会カンファレンス, 話題提供,

12月16日)

Muto, T. Dancing with dementia in super-aging society: Mindfulness and acceptance approach for people with dementia and their family caregivers. (International Interdisciplinary Symposium of Doshisha University, Kyoto, the Doshisha EU Campus at Tübingen University, and Eberhard Karls Universität Tübingen, Germany, 2月27日)

大屋 藍子 “はじめて”のACT事例検討会 (ACT Japan mini Conference 2018, コメンテーター, 同志社大学, 11月18日)

嶋 大樹・伊藤 雅隆・津田 菜摘・井上 和哉・高橋 まどか “はじめて”のACT事例検討会 (ACT Japan mini Conference 2018, 研究会企画運営, 11月)

13. 社会貢献

講演・公開講座

藤井 彩・佐藤 豪・木村 穰 「生活習慣病領域のチーム医療における臨床心理士の役割——肥満症治療を中心に——」(第18回日本認知療法・認知行動療法学会大会企画シンポジウム9「慢性身体疾患の一次・二次・三次予防にいかす認知行動療法」, 11月24日)

Fujioka, I. “History and characteristics of Japanese clinical/counseling psychology” (Japanese approaches to mindfulness and mental health (Antioch University), Shunkoin Temple, Lecturer, 3月14日)

早樫 一男・古川 秀明・興津 真理子 関係行 政論特別講座 (7月15日)

石川 信一 教師による子どものためのメンタルヘルス予防——困ってから?その前に出来ることは?—— (第二回「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム」研修会, 7月25日)

石川 信一 発達障がい児の Depression について (Japanese Carer’s Group 研修会, 3月13日)

武藤 崇 英国との比較から考える日本の高齢者臨床 (同志社大学実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター「特別・シンポジウム・『2025問題』に対する心理学からのACTion: 英国から学ぶ」, 話題提供, 6月8日)

武藤 崇 「しあわせ」のはじめかた——最新の心理学からのヒント—— (京都市保健福祉局障害保健福祉推進室こころの健康増進センター「こころの健康講座」, 講師, 7月13日)

武藤 崇 心理学と良心(良心学研究センター「公開シンポジウム・良心学を展望する——『良心学入門』から見える世界——」, 話題提供, 10月25日)

武藤 崇 こころを元気にしよう——今を自分らしく生きる—— (京都市左京区役所, 講師, 11月9日)

武藤 崇 科学的なコーチング学から考える「ケアマネジャーの技」とは何か? (公益法人京都府介護支援専門会 平成30年度企画研修, 講師, 12月20日)

武藤 崇 ACTを「解剖」する——ACTの誤解を正し, 誤用を予防するために—— (東京認知行動療法アカデミー, 講師, 1月6日)

大屋 藍子 糖尿病患者のセルフケア行動を育むためのアクセプタンス&コミットメント・セラピー (第3回京都糖尿病患者さんのこころと行動と医療者のかかわりを考える会 特別講演/症例検討パネリスト, 8月9日)

興津 真理子 京都グリーフケア協会 介護コース上級 講師 (8月31日), 看護上級 講師 (6月8日, 8月1日, 10月12日, 12月14日, 2月8日)

杉若 弘子 日本心理学会留学生ネットワーク (仮称) 設立に向けて (日本心理学会第82

回大会, 学会企画シンポジウム, 企画)

田中 あゆみ・石井 僚・田村 綾女・阿部 望・
伊藤 雅隆・柿沼 亨祐・江 聚名・乳原 彩
香 ひらめき・ときめきサイエンス——よ
うこそ大学の研究室へ—— KAKENHI「心
理学博士たちの一日——やる気を高める方
法を開発せよ——」(同志社大学京田辺キャン
パス, 8月1日)

中西 陽

(心理学研究科博士課程後期課程)

岸田 広平

(心理学研究科博士課程後期課程)

阿部 望

(心理学研究科博士課程後期課程)

津田 菜摘

(心理学研究科博士課程後期課程)

乳原 彩香

(心理学研究科博士課程後期課程)

橋口 知輝

(心理学研究科博士課程前期課程)

金 逸蓉

(心理学研究科博士課程前期課程)

町田 奈穂

(心理学研究科博士課程前期課程)

徳田 弘之

(心理学研究科博士課程前期課程)

八谷 勇斗

(心理学研究科博士課程前期課程)

米澤 里奈

(心理学研究科博士課程前期課程)

松木 美佳

(心理学研究科博士課程前期課程)

松岡 里紗

(心理学研究科博士課程前期課程)

竹村 忠寛

(心理学研究科博士課程前期課程)

横井 沙郁

(心理学研究科博士課程前期課程)

肥田乃梨子

(心理学研究科博士課程前期課程修了生)

河田 江美

(心理学研究科博士課程前期課程修了生)

中谷 結花

(心理学研究科博士課程前期課程修了生)

西尾 悠佑

(心理学研究科博士課程前期課程修了生)

四宮 愛香

(心理学研究科博士課程前期課程修了生)

14. 2018年度構成員

センター長

神山 貴弥 (心理学部 教授)

副センター長

武藤 崇 (心理学部 教授)

指導相談員

佐藤 豪 (心理学部 教授)

杉若 弘子 (心理学部 教授)

興津真理子 (心理学部 教授)

石川 信一 (心理学部 教授)

藤岡 勲 (心理学部 准教授)

特任指導員

早樫 一男 (心理学部 嘱託講師)

菊田 和代

(実証に基づく心理・社会的トリートメン
ト研究センター 嘱託研究員)

大屋 藍子 (心理学部 助教)

相談員

堀江 幸代 (心理臨床センター)

梅澤友香里 (心理臨床センター)

相談研修員

上西 祐輝

(心理学研究科博士課程後期課程)

荒井穂菜美

(心理学研究科博士課程後期課程)

橋本 光平

(心理学研究科博士課程後期課程)

伊藤 雅隆

(心理学研究科博士課程後期課程)

15. お詫びと訂正

2018年12月15日に発行いたしました、「心理臨床科学第8巻第1号」の2017年度心理臨床センター活動報告（p.61）に、誤りがございました。下記の通り、訂正いたします。

皆様に大変ご迷惑をおかけいたしましたことを、謹んでお詫び申し上げます。

【誤】

3. 相談件数

年間の相談受理件数は117件だった。年間のべ635件の相談（月平均52.9件）を受理した。各月における面接形態の内訳は Table 2のとおりだった。なお、2017年度に実施した心理検査は Table 3のとおりであった。

Table 2 相談の内訳

月	初回 面接	心理 相談	並行 面接	心理 査定	その 他	合計
4月	6	27	1	0	0	34
5月	6	32	2	0	0	40
6月	4	34	1	1	0	40
7月	15	39	1	2	0	57
8月	2	74	0	2	0	78
9月	15	49	1	0	0	65
10月	1	49	1	2	0	53
11月	11	40	1	1	0	53
12月	2	43	1	0	0	46
1月	4	24	1	32	0	61
2月	5	40	0	1	0	46
3月	3	59	0	0	0	62
合計	74	510	10	41	0	635
月平均	6.2	42.5	0.8	3.4	0.0	52.9

【正】

3. 相談件数

年間の相談受理件数は117件だった。年間のべ666件の相談（月平均55.5件）を受理した。各月における面接形態の内訳は Table 2のとおりだった。なお、2017年度に実施した心理検査は Table 3のとおりであった。

Table 2 相談の内訳

月	初回 面接	心理 相談	並行 面接	心理 査定	その 他	合計
4月	7	27	0	1	0	35
5月	4	33	1	0	0	38
6月	4	36	0	1	0	41
7月	15	39	1	2	0	57
8月	2	74	0	2	0	78
9月	15	50	0	0	0	65
10月	1	49	1	2	0	53
11月	11	41	0	1	0	53
12月	2	43	1	0	0	46
1月	4	38	0	50	0	92
2月	5	40	0	1	0	46
3月	3	59	0	0	0	62
合計	73	529	4	60	0	666
月平均	6.1	44.1	0.3	5.0	0.0	55.5